

2010-11年度 地区ロータリー財団セミナー事例発表

中華人民共和国 内蒙古自治区における

沙漠緑化植樹とポンプ井戸建設事業ならびに
学用品寄贈事業

報告

舞鶴東ロータリークラブ

会長 広瀬 久哲



第一次隊 団員20名
平成17年8月26～31日



第二次隊 団員12名
平成18年8月20～25日



第三次隊 団員25名
平成19年8月24～29日



第四次隊 団員16名
平成20年6月2～7日

**第五次隊 団員15名
平成21年8月18～23日**



**第六次隊 団員28名
平成22年7月26～31日**



平成17年から今年まで6年間で

述べ団員 116人が参加 内 小学生12人 中学生4人 高校生2人 青年27人

**参加RC・・・舞鶴東RC、京丹後RC、綾部RC(2次隊から参加)
京都東RC (5次隊から参加)**

植えた木2770本 主に ポフワ、松、ネイジョウ、ヤナギ、山杏

剪定した木 1万8千本



植林のすぐそばはこのような沙漠である
このクブチ沙漠は四国・九州合わせた面積の大きさ



われらの天体 地球の保全 (PRESERVE PLANET EARTH)

この標語は1990～91年RI会長パウロV・C・コスタ氏が環境保全プログラムの名称としたものです。

**この頃一人の日本人が沙漠緑化に挑戦した。その人物は鳥取大名誉教授 遠山正瑛氏 当時88歳だった
ここから沙漠緑化の第一歩が始まった。**



「ロータリーの森」確保。ここから
ロータリーの森が広がる



深さ1メートル
掘って植林

クフチ沙漠・恩格貝で
「ロータリーの森」制定地
でポフラの木植える





中国電視台(日本ではNHKに該当)が私たちに同行し活動のすべてを撮影しました。



2009年 活動のすべて くまなく撮影しました。



**ポンプ井戸建設事業費を現地担当者に稲田隊長
から目録が進呈された。
内モンゴルは50年ぶりの大干ばつと言う。
この基金が大いに役立つであろう。**





今年行って見ると、昨年の地区財団補助ポンプ井戸堀支援金を利用して井戸掘り作業をしていました。

ここでは20~25メートル掘ると水が出るようだ。

1本掘るのに 現地単価5万円かかる。



地下三十メートル掘れば
冷たい水が湧き出ている





地元の子と一緒に植える日本の中学生、小学生











植林で大事な作業
は剪定である



熱烈歓迎する子供たちの裏が日本の援助で建てられた校舎。



綾部RACから童話絵本を贈る



この活動の、もう一つの目的は、内モンゴルの子供たちへの教育支援であります



私たちは毎年、一緒に植林する子供たちが通う育才小学校へ

表敬訪問をして、学用品や体育用具
楽器などを贈呈しています



その度 子供たちは歌や踊りで熱烈歓迎をしてくれます







**この子供たちの笑顔があるかぎり
この運動は続きます**



**この砂漠もこのままほっておくと拡大していくのだ
この地球上で年間九州の大きさが砂漠化しているのです**

沙漠のど真ん中に木を植えると砂漠が緑化する



**これまで15年かけ 日本各地からボランティアが参加して
350万本が植林されました**

もうそこは、沙漠の中のオアシスとなっている



一九九〇年

二〇〇四年



**十年数年前までここが沙漠
だったとは 想像も付かない
ように変身した・・・**

**この運動が多くのロータリークラブに
広がれば 地球保全・地球温暖化防止に
繋がります。立ち上がりましょう
行動するロータリーとして・・・
実現しましょう。沙漠緑化を・・・**

2010～2011

舞鶴東ロータリークラブ

会長 広瀬 久哲